

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0770403160		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム あさがお		
所在地	〒974-8261 福島県いわき市植田町本町一丁目11番地の4 (電話) 0246-62-7881		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんなビル302号室		
訪問調査日	平成19年12月4日	評価確定日	平成20年2月14日

【情報提供票より】 (19年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 4月29日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 16人, 非常勤 0人, 常勤換算 16人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	1 名	要介護2		6 名		
要介護3	7 名	要介護4		3 名		
要介護5	1 名	要支援2		0 名		
年齢	平均	83.7 歳	最低	76 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ゆうクリニック、根岸歯科医院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街の中にある、平屋建て2ユニットのホームである。目の前には児童館、隣には病院があり、近くには図書館、公民館、郵便局等がある。交通量の多い道路に面しているが、ホームの駐車場や花壇等が広く取ってあるため、建物の中に騒音はない。前オーナーの配慮により、居室ごとに照明具や壁紙が変えてある。共用スペースが広い一方、トイレ・浴室・居室などの出入り口の開口幅が狭くなっているのが残念であった。利用者が落ち着いた雰囲気でお互いに言葉を掛け合ったり、職員とも穏やかに関わっている姿が見られ、関係性の良さが伝わってくる。地域密着型サービス事業所として、まだ理念の見直しはされていないが、地域に向けて「よろず介護相談」を実施したり、地域向けの広報誌を作成したりして、積極的に取り組んでいる。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回指摘された、洗剤等の保管に関しては、目に付かないように箱に入れる工夫ができています。また、洗濯室への出入りに関しても扉に簡易な鍵を取り付け、危険防止に配慮ができています。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者、計画作成担当者だけでなく、ユニットごとにスタッフの意見も採り入れ記入する努力をしている。職員の意見を聞きながら作成した自己評価であるため、今後は、出来上がったものを職員にフィードバックしてほしい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5) 運営推進会議において提案されたこと(広報誌の改善すべき点)をすぐに行ったり、地域住民との交流を図るべく、行事参加を促したりしている。しかし、会議の具体的な協議内容に関しては、委員もホーム側もどんなものを議題としたら良いのか迷っているようであった。今後は、地域密着型サービスとして、現在の運営理念へ追加していく際の協力要請をしたり、グループホームでの日常を理解してもらえよう会議日時の設定(避難訓練の参加など)に工夫したりしてほしい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 施設内の行事や本人の様子、金銭管理の報告は個別に実施されている。家族の面会時や、計画作成時などに意見を聞く努力はしてきたが、具体的な意向や、特に苦情は表面化してこなかった。今回誤解があった事例を経験し、職員が利用者や家族に伝えたいことが間違っ伝わらないよう、今後は具体的な方針を示したり、文書で確認しあったりするなど、行き違いをなるべく出さないようにしていくことが大切だと思われる。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 「よろず介護相談」を実施したり、地域に向けた広報誌を作成し、町会に回覧したりしている。地域との交流は、住民の高齢化により、町内会の行事がほとんど無い。役員の方の訪問があったり、地域の住民とは挨拶を交わすつきあいである。しかし児童館の子ども達や中学生のインターンシップ経験を通しての訪問があるなど、少しずつ広がってきている。地域の人達をホーム行事にお誘いしたが今年は、他の地域の行事に重なってしまい参加は得られなかった。しかし、今後も計画していくとのことであった。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念としてはできているが、地域密着型サービスの役割を反映した理念に作り直していない。	○	地域密着型サービス事業所として、地域との関わりを含めた表現を理念に加える必要があると思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングの時に、管理者が職員に『理念って何だっけ?』と問いかけながら、確認している。また、理念をホーム内に掲示しており、職員はいつでも確認することができる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(祭り)等に利用者と一緒に参加したり、向かいにある児童館や保育園の子ども達の訪問を受けたり、ボランティアさんの歌謡ショーを見せてもらったりと地域と交流を行っている。事業所は、「よろず介護相談」を行ったり、町内会用広報誌を回覧したりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善点となった、「注意の必要な物品の保管・管理」については、保管方法を見直し改善に向けた取り組みを行った。今回の自己評価もユニットごとに全職員で取り組みを確認し、サービスの質の向上に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームが地域の理解を得るために、地域用広報誌を作成し回覧することで、委員の活発な発言を受け、意見を反映しながら取り組んでいる。委員から出された意見の活用はされているが、今、ホームの中で取り組もうとしていることを報告し具体的な意見を出してもらいサービスの向上に活かしていければ、さらに良いと思われる。		
6	9	/	/		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	『あさがおだより』や『あさがお通信』を作成し利用者の日頃の様子を写真や手紙で報告している。また、家族が訪問された際に、預かり金の金銭管理状況等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今まで苦情は無く、つい最近寄せられた苦情が最初である。面会時に家族から意見等を聞き取っていたと思われるが、今回の苦情内容から職員が伝えたいことが間違っって伝わったことが判明したという。	○	職員が家族へ話をする際に、誤って内容が伝わらないよう十分気をつけながら、利用者や家族の意見等を聞き取る機会を作ってほしい。また、家族が意見や苦情を言えずにいる可能性にも配慮をすればさらに良いと思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人間の職員異動はあまりない。異動等による利用者へのダメージを少なくできるよう、退職者等から利用者へ事情を説明したり、退職時に挨拶したりと対応している。		


外部 評価 値	自己 評価 値	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には職員の希望や経験等に応じて出席させ、内部研修も行っている。外部研修参加者は、職員会議で研修報告を行い全体へ伝わる仕組みになっている。研修会資料は、誰でも見ることができるよう置かれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修や会議に参加し、同業者と交流しサービスの質の向上に努めている。直近の実践報告会へも参加した。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は畑の作り方や季節の行事について、利用者から教えてもらいながら行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	洗濯物を一人で干したり取り込んだり、畑を見に行ったり収穫するなど、個人の意向を尊重している。また、献立の作成時など一緒に料理本を見ながら検討したり、好みを聴取している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の面会時に聞き取りをしたり、本人から話を聞くなどしている。計画作成に関しては担当者が原案を作り他職員や計画作成担当者と相談して完成させている。しかし、本人に関する情報があちこちにあるために、一つの介護計画にまとめにくいと思われる。		センター方式のシートを部分的に活用したり、取り組んでいる「自分史」をどうケアに活かすかなどを話し合ってみてはどうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	実際のケアの場面においては日常的に意見交換し、それを活かす工夫がなされているが、介護計画にそれが載せられるのは3ヶ月ごとの見直し時期であり、後追いとなっているので、その都度、計画変更する方がいいと思われる。	○	介護計画書の期間には具体的な日付を記入するとともに、毎日、目にするところに介護計画書を置き、変更があればすぐに記載できる工夫を考えてみるのがよいと思われる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診はグループホームの協力医療機関の往診で、利用者の体調変化に伴う受診は通院介助をし、利用者が適切な医療を受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとして利用者が重度化した場合や終末期にできる事できない事を整理しているものの、利用者や家族の意思の聞き取りをし、その情報を共有するまでには至っていない。	○	利用者や家族等は重度化してもホームで生活ができるものと誤解することが無いよう、ホームの対応方針を明文化し、示す必要がある。また、重度化に伴う家族の意思確認書等により家族の意向を確認しながら、職員間で（利用者が自己実現できるよう）対応方針の情報を共有する必要がある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りを尊重し、プライバシーには十分配慮し、トイレ誘導の際は、利用者の耳元で声かけをしている。さらに、個人情報保護法の理解に努め、秘密保持の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方とはしていない。体調等に配慮しながら、お酒や煙草は職員が保管し、見守りながら提供している。		一人ひとりの希望が叶えられるよう、利用者の状態や思いに配慮しながら柔軟な対応をし、職員が利用者に合わせることも大切である。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事一連の作業（下準備、調理、後片付け等）の中で、できるだけ利用者の力を発揮できるようにしている。収穫した畑の野菜やスーパーで買った食品を使い、食事作りをしている。職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しく食事できるよう雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員が一方向的に決めているのではなく、利用者の意向を確認しながら、入浴支援を行い、時間も本人の意向を大切にしている。また、利用者の羞恥心や抵抗感にも配慮し、言葉掛けを工夫したり、気の合う職員が対応したりしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	料理の下ごしらえ、テーブル拭き、後片付け、洗濯物たたみ等利用者の残存機能が維持できるよう、役割を見つけて支援している。また、音楽活動においては、利用者がリーダーとなっていきいきと過ごせるような場面作りがされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	植田町の歩行者天国、公民館の文化祭、海浜浴等へ出かける機会を設けている。天気の良い日には、散歩や買い物にも出かけている。また、畑へ出て作業をしたり、草むしりをしたりしている。家族の都合が合えば、家族と一緒に外出することもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の状態に不安があるため、家族へ説明し、玄関の鍵は暗証番号による開錠システムになっている。1人で外に出てしまう利用者には付いて行き見守りながら対応したり、利用者の行動パターンを把握することで鍵をかけずに対応することもできると思われる。		鍵をかけることにより利用者へ与えるデメリットを理解し、鍵をかけなくてもすむような対応はできないのか、職員間で検討してほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月様々な状況を設定して避難訓練を実施しており、災害に備えた備蓄も準備されている。運営推進会議を通じて地域への協力を依頼したが、町内会は高齢化しており対応できないということである。今後は、地域の消防団へ依頼してはどうか。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者ごとに食事摂取量等を常に確認し記録している。利用者の好みを取り入れた献立を作成している。また、刻み食やおかゆ等一人ひとりに合わせて対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花が飾られており、ユニットごとに洋風の造り（ホテルのような雰囲気グランドピアノがある）、和風の造り（畳スペースが腰高に設置されており、椅子代りに座れる）となっている。浴室の風呂桶の横には、利用者が腰掛けてまたげるようなスペースが確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ホームが用意したベッドと整理タンスが置かれており、洋式の部屋と和式の部屋が準備されている。利用者は自分の生活スタイルに合わせて、テレビ、時計、こたつ、応接セット、仏壇、タンス等できるだけ馴染みの物を持ち込んでいる。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム あさがお

記入担当者名 本田 訓子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。